

はしがき

世界は、様々な深刻な課題を抱え、激動の中にある。冷戦終結から約30年、民族紛争や国際テロリズム、核拡散、移民・難民問題、気候変動に伴う巨大自然災害、世界経済・金融危機と格差拡大、新型コロナウイルスをはじめとする新興感染症など、人類の生存にかかわる地球規模課題は枚挙に暇がない。これらの諸課題に対処するための取組みは、各国国内行政だけでは甚だ不十分であり、国際行政によるグローバル・ガバナンスが強く要請されている。本書『国際行政の新展開—国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』は、国際行政の初学者向けに、身近な問題を取り上げ、図表やさらに学ぶための文献も基本的に日本語のものを取り上げ、また英文の文献・図表は和訳するなど工夫し、大学生のみならず幅広い読者層を対象として執筆した。特に国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」のグローバルな課題に関心のある学生諸君、実務でSDGsにかかわるビジネスマンや国際協力行政機関・NGOの職員、国・地方公共団体の公務員、市民など、地球規模課題に興味があるすべての人々の学びの一助となることを目指した。実社会において読者の皆様が様々な就業・活動において自らの問題として地球規模課題に取り組み、それぞれの立場から課題の解決に果敢に挑戦し、鋭い問題意識をもって政策の企画・立案及びその後のマネジメントやガバナンス能力を身に付け、あるいは日々の生活で情報を摂取し考え議論・行動するなど、地球市民社会の連帯に貢献されることを切望している。

本書の第1の特徴は、伝統的な国連システムと超国家性を有するEUという2つの主要な国際機構（群）の国際行政に焦点を当てたことにある。このような構成は、執筆者の各々の専門を活かしたものともなっており、その結果、本書は国際行政を学びつつ、同時に、国連・EU・国際機構の知識も自然と身に着くようになっている。第2の特徴は、歴史と理論、制度と組織、行政資源などの基礎的事項を踏まえつつ、SDGsのグローバル・ガバナンスに要請される様々な国際公共政策について、国際行政と加盟国行政・主権国家の統治機構と

の関係も踏まえつつ、本書のタイトルにある「新展開」として最近の動向や変化を取り上げている点にある。第3の特徴は、本書の各所で、国連システムやEUなどの国際行政と日本との関係について取り上げている点にある。

本書はさらに、丸善雄松堂の Maruzen eBook Library プラットフォームを介して、Web 連動型の本書のデジタル・テキスト『国際行政の新展開―国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』としても公開され、ホームページも近く公開される。これは、書籍版とWebとの連携による新たな挑戦でもある。これにより、国際機関や行政機関等のウェブサイトのURLに容易にアクセスし、最新のデータ、報告書等、関連の動画等を簡単に検索・閲覧し、また、関連の論文・レポートをJ-STAGEや所属の大学図書館が提供する電子ジャーナルを参照することも容易になる予定である。また、Zoomやムードルなどに設定した講義をオンデマンド方式で配信し、あるいは双方向の遠隔リアル授業においてもアクティブ・ラーニングを支援するような幾つかの工夫もある。

執筆者としては本書が、多くの読者の国際行政への理解を深める上での参考となり、また、国際行政や国際協力の実務と研究の発展に些かでも貢献できることを願ってやまない。最後に、執筆者が研究・教育においてお世話になった様々な分野の碩学の先生方、実務家の皆様に深謝する。そして、本書の刊行まで忍耐強く取組んでくださった法律文化社編集部の小西英央様をはじめ、本書の出版にご尽力くださったすべての皆様に心から感謝申し上げたい。

〈付記〉本書は科研費基盤研究の18KT0003・18K01450・19K01455と同若手研究の16K17056の研究成果の一部でもある。

2020年6月

福田耕治・坂根 徹